



# 第13回 JAあきた白神女性部大会

第13回 JAあきた白神女性部大会が、2月6日にサンルーラル大潟で開かれ、平成28年度の女性部活動の報告や講話、交流会などを通じて、これからも魅力のある活動を行い、部員の輪を広げ、そして地域を元気にする決意を新たにしました。

大会には各地区の女性部員約230名が参加。はじめに佐々木博子女性部長が「女性部員の減少や高齢化が進んで

いるが、このような状況だからこそお互いに助け合い、話し合い、手を取り合うことが大切ではないだろうか。仲間が集い、女性部員の一人一人が、地域の人々と連携してにぎわい作りをしていくことが必要となる。

この女性部という組織がますます活性化につながるよう、みんなで声を掛け合っていきましょう」とあいさつをしました。

また、佐藤組合長からは「農業における女性部、女性の力は大変大きなもので

ある。家族と共に農業を支える力、生活を支える力、生産者と消費者の目を持つ力で、女性部員の方々と変化する農業、新たな農業改革に立ち向かっていきたい。また、女性部員には、地域の賑わい作りのリーダー的な役割を期待しています。くらしの活動などを通して、今後も女性部会員のさらなる加入、仲間作りに力を発揮していただきたい」と祝辞を述べました。

フレッシュ活動の報告では、藤里フレッシュの“なんぼになってもフレッシュでいたい”と題した発表が行われました。地元小学校への野菜提供や農作業体験などの食育事業活動や、能代支部との合同活動を紹介し、新たな仲間との交流の喜びなどを話してくれました。

午後からは「はなちゃんのみそ汁」の映画鑑賞をし、食と命、食と生きていくこと、食と家族の大切さについて改めて理解を深めました。その他にも、食品や衣料の即売会、お楽しみ抽選会なども行われ、女性部員達は楽しいひと時を過ごしました。



←次年度へ向け、抱負を語る佐々木部長

→各支部からの様々な活動が報告されました



→「家の光」の活用術などの講話も行われました



→大盛況だった即売会

